

都道府県名	宮 城 県
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	石巻市立湊中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	2	11	23
生徒数	103	104	90	2	299	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身につけようとする湊中学生の育成
～個に応じた指導の工夫を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年・教科

全学年、必修・選択9教科対象

- ・必修9教科については、特定の教科に限らずに、全ての教科で、生徒が身につけるべき確かな学力の育成が必要と考えたため。
- ・選択教科については、発展的学習、補充的学習、個性を生かした学習など「個に応じた指導」を進めていく上で、選択教科での取り組みは、必要不可欠と考えたため。

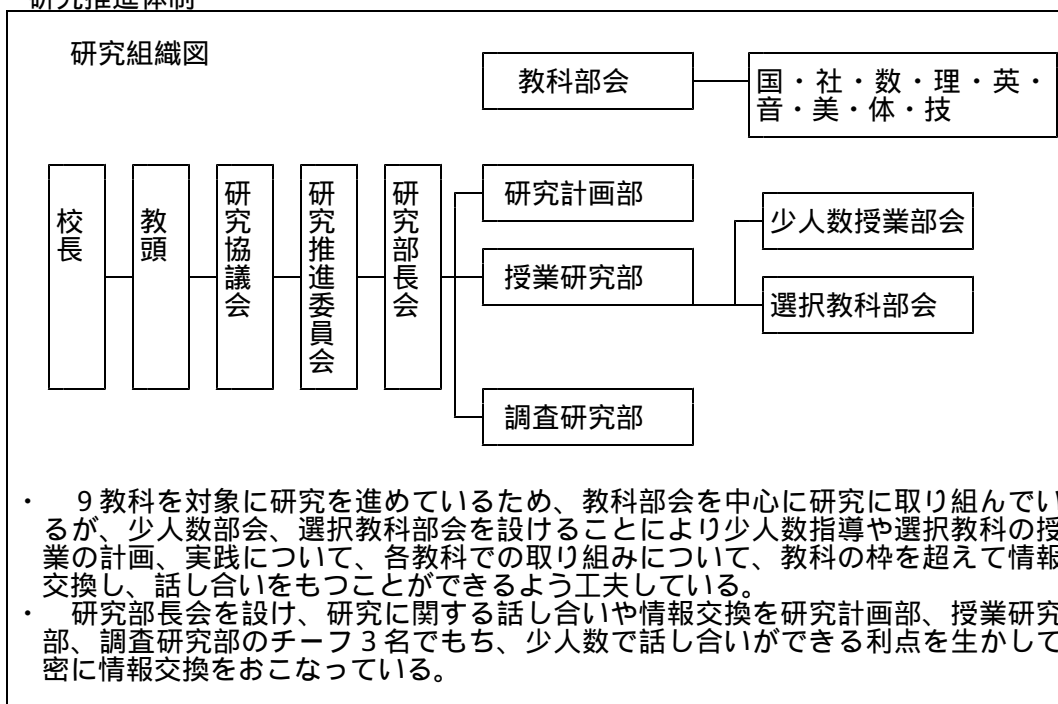
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 確かな学力を身につけようとする湊中学生の育成 ～個に応じた指導の工夫を通して～</p> <p>研究の見通し（仮説） 基礎・基本の確実な定着のために、個に応じたきめ細かな指導方法や指導形態を工夫すること 自ら学び、自ら考える力を育成するための指導方法や指導形態を工夫すること 選択教科を中心に、生徒の興味・関心を生かして個性の伸長を図ること 個に応じたきめ細かな評価をおこない、その評価を生かした指導を進めること</p> <p>研究の内容・方法 基礎・基本の確実な定着のための、個に応じた指導方法や指導形態について * 評価規準を生かした個に応じた授業づくり * 少人数指導における習熟度別学習の実施 実施教科・学年 1・3年 数学 2・3年 英語</p> <p>自ら学び、自ら考える力を育てるための指導方法や指導形態について 課題別学習、体験的学習の実践 必修教科での発展的学習の実践 選択教科の履修幅の拡大と発展的、補充的学習を中心とした生徒一人一人の個性を生かせる選択教科の指導について ・生徒の願いに応じた幅広い選択教科のコース設定 ・ねらいを明確にした選択教科のコース設定 ・基礎コース、関心コース、課題コースの3コース 個に応じた評価の研究と評価を生かした指導について 評価規準に基づいた、きめ細かな評価の手法の研究と指導と評価の一体化</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力を身につけようとする湊中学生の育成 ～個に応じた指導の工夫を通して～</p> <p>研究の見通し(仮説) 基礎・基本の確実な定着のために、個に応じたきめ細かな指導方法や指導形態を工夫すること 自ら学び、自ら考える力を育成するための、指導方法や指導形態を工夫すること 選択教科を中心に、生徒の興味・関心を生かしたコース設定、指導方法を工夫して個性の伸長をはかること 個に応じた評価の研究と評価を生かした指導について</p> <p>研究の内容・方法 基礎・基本の定着を図るための、個に応じた指導方法や指導形態の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準を生かした基礎・基本の確実な定着を目指した授業づくり 評価項目を絞り込み、授業の目標を明確にし、明確にした観点について授業の中に見取りを取り入れた個に応じた指導によって基礎・基本の確実な定着を図る。 ・定期的な単元テストの実施(5週に1回・国社数理英の5教科) 単元テストをおこなうことで、学習内容の定着度を短いサイクルで確認する。また、テストの結果を分析し、その後の個に応じた指導の資料とする。 ・弾力的な少人数指導、チーム・ティーチング指導の工夫 数学、英語、理科の三教科で複数教員による指導を実施。指導形態については、単元、題材にあわせ少人数指導(習熟度別・課題別・興味・関心別など)とチーム・ティーチングを弾力的に実施していく。 今年度から理科でも複数教員による指導を行なっているが、観察・実験を中心に、より個に応じた指導を進めていくために必要と考えたため。 個に応じたきめ細かな評価の工夫 ・評価規準に基づいたきめ細かな評価及び指導と評価の一体化 各教科で単位時間の評価規準を設定し、評価規準に基づいて評価を累積していく。また、評価をその後の指導に活かし、指導・評価・指導と評価をフィードバックすることによって、学習事項の確実な定着を目指す。 ・情意面を重視した自己評価の実施 生徒の情意面の変化を知ることを行ないとして実施し、教師の側からの励ましやアドバイスなどを通して、生徒の主体的に学ぼうとする気持ちを伸ばしていく手立ての一つとする。
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 確かな学力を身につけようとする湊中学生の育成 ～個に応じた指導の工夫を通して～</p> <p>研究の見通し 基礎・基本の確実な定着のために、個に応じたきめ細かな指導方法や指導形態を工夫すること 自ら学び、自ら考える力を育成するための、指導方法や指導形態を工夫すること 選択教科を中心に、生徒の興味・関心を生かしたコース設定、指導方法を工夫して個性の伸長をはかること 個に応じた評価の研究と評価を生かした指導について</p> <p>研究の内容・方法 自ら学び、自ら考える力の育成 課題解決学習、発展的学習の充実 選択教科における確かな学力の育成</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

学習アンケートの結果から昨年度に比べて、関心・意欲や理解度について向上が見られ、研究主題にある「確かな学力を身につけようとする」生徒の育成が進んできていることがうかがえる。

学習アンケート結果

・授業の内容がよくわかる

H14年度 66.5% H15年度 76.5%

・授業内容に興味・関心をもった

H14年度 54.5% H15年度 58.9%

個に応じた指導形態の工夫として取り入れている少人数指導、チーム・ティーチングについて、一人の教員による指導に比べ授業に参加しやすくなった、学習内容がわかるようになったなど少人数指導、チーム・ティーチングの効果がアンケート結果から見られた。

・授業に参加しやすくなった

67.0%

・授業がわかるようになった

66.7%

単元テストの実施によって、基礎的・基本的な学習事項の定着に効果が見られた。

2. 今後の課題

生徒が主体的に学ぼうとする気持ちを育てる手立てについての研究。
自ら学び、自ら考える生徒を育成するための、課題解決学習や発展的学習など生徒自らが課題を設定し、その解決に取り組む授業づくりの工夫についての研究実践。
選択教科における発展的学習、補充的学習の指導方法を中心に、生徒の関心・意欲、個性を活かした選択教科のコース設定、指導方法のあり方についての研究実践。

学力把握のための学校としての取組

学習アンケート
 必修教科、選択教科における生徒対象の学習アンケート。生徒の学習への関心・意欲、理解度などを知ることが目的を実施。年2回5月、2月に実施。

CRT学力検査
 生徒の学習状況の客観的な資料とするために実施。全学年、国・数・社・理・英（1学年1回目のみ英語をのぞく）の5教科を対象とする。毎年3月に実施（1学年のみ4月、3月の2回実施）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業
 本校における研究の取り組みについて、公開授業を通して広く知らせるとともに、指導助言や情報交換、講話などを通して研究推進の一助とする。
 対象は、石巻管内の小・中・高等学校を中心に県内外のフロンティアスクールなどとしている。

平成15年度は、3回実施。実施月日と教科については以下のとおりである。
 平成15年 5月27日（教科 国語・理科・技家）
 平成15年 11月20日（教科 音楽・美術・体育）
 平成16年 2月10日（教科 国語・社会・数学・理科・英語）

ホームページによる研究に関する情報発信。平成15年11月8日より
 県外のフロンティア校との情報交換（山形県、秋田県、福島県）
 県外からの研究視察受け入れ（静岡県、群馬県、埼玉県）
 平成16年度は、11月15日に公開研究会実施の予定。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	